

論説

道路行政圏の擴大

田川大吉郎

交通上の事故が年々夥しく増加しつゝ、就中、自動車の關係に於てそれが増加しつゝある。自動車は今日の交通上、最大最善の要素、何うしても缺ぐべからざるものであることは論は無いが、それでもそれに關する變事の發生を防止し減退せしむる有効の方法が何か無らうかといふ研究は今日の世界の緊要問題の一たるを失はない。

米國政府は昨一年中の自動車による事故を統計し分類して、今年春、次の様な結果を發表した。昨三十四年中、米國の市街路並びに道路に起つた自動車による變事は、各十五分ごとに一人づゝの死者、各三十一秒ごとに一人づゝの傷者を生じた割合になる。實に夥しい數である。



旅行保險を業とする會社の、全國的統計によれば、昨一年中に三萬六千人が死んで、大凡一百萬人が九十萬件の衝突の間に害せられたことになつて居る。

それは、どの州に多くて、どの州に少いと——米國は御承知の通り四十八州に分れて居る——ことわけて差別を示すに至らないが、全州に亘つて多かれ少かれ前年よりも死傷者の數の増したに對し、たゞ、何々の六州だけは前年よりもやゝ減じて居る。この六州の中に紐育州のあることは注意に値ひするであらう。

そこで一九二四年から一九三四年までの十一年間の事故を統計すれば、その死亡者の數が二十九萬人を超へ、死亡に至らなかつた被害者の數が八百萬人を超へて居るのである。

この報告によれば十一年間に一年平均の死亡者の數は約二萬六千餘人である。それが昨年には三萬六千人に殖へて傷害を被つた者の平均數は一年約七十三萬人弱で、それが昨年には驚くべし百萬人を突破したのである。米國政府がこれを以て同國最大の不祥事と爲し、銳意防止策を講じつゝあるのは、當然過ぎた當然のことである。

二

その研究の結果は時折り發表され、又時を移さず實行もされた、しかしながら未だ有効でない。その證據として、道路上に於る變事の數は前段に記した如く、年々に増加する一方、些しも減退せず、社會

一般の不安と危虞とは、年ごとに増し、加へられつゝあるのである。

米國と同様の不安と危虞とを重ねつゝある英國では、昨年に至つて、その交通政策上に一大變革を加へ、これで以て變事の發生を、劃期的に、減少し得るであらうと期したのである。しかしながら、其の後の報告を見るに、それも未だ其の様の好轉の成果を來さず依然として事故漸増の傾向に在り、たとへ漸増しないまでも、前週と同様若くは少減と報告せらるる程度に惱んで居る。彼等はその新政策に對する望みを未だ拋棄してゐない。それを以て、無用、姑息、徒爲、遊縫、採るに足らない政策だとして、輕視し非難する迄にはなつてゐないけれど、しかも、其の効果の渺々しからぬを嘆ずるあまり、前述に疑ひを深くし、従つて自動車交通の危險に多大の懸念を懷いて居る。

そして最近には、その警察方面に及ぼした惡影響を省察し、それにも大いなる危懼を感ずるに至つて居ると申すは、

- 一、交通上の事故防止に關する新政策が、警察官吏に、餘りに多の任務を課し過ぎたと云ふのである。
- 二、そのために彼等警官は、警官本來の治安維持の務めを、ゆめ、怠つて居るのではないけれど、それに幾分の手ぬかりを生じた憾みがないとしない、ある方面ではその効果を多少減退せしめた憂ひがあると申して居る。

一體、法令雨下といふことは英國では日本ほど甚しくないのであるが、それでも、前に申した新政策の發表、新道路取締規則の發布等に關し、それらの法律、規則、内規の類の研究、確實なる理解がなかく、

容易でないと思え、それらの研究に費さるゝ彼等の勞力と時間とが多なるため、彼等の素質は向上して居る、決して退下して居るのではないけれど、負擔の量が重過ぎるから、多過ぎるから何うしても手が廻り兼ねるに至つたのであると、警視總監等は深く彼等の上を保護しつつも、これを愁訴するに至つて居るのである。

私は此の愁訴を頗る大事と思ふ、交通上の取締勤務に多大の時間を要するため、それに心魂を消費し、肝腎の治安維持の勤めに手薄を感じ、手抜かりを感じるに至つた、そのために泥棒や詐偽や家宅の侵入や破壊等の事件が反つて多からんとする傾向を生じて寒心に堪へないところのあるのをたゞ事ならず、よそ事ならずと感ずるのである、英國の今日の事、寧ろ今日の日本の事の如く、日本こそこれに對し一層注意せねばならぬ必要があるのではないかと憂はしく思ふのである。近年の日本の新聞紙は實に毎日、血腥ぐさい異様の記事に充されて居る、その原因は勿論簡單でないが、(一)警察本來の治安維持、平和維持、民衆の幸福安寧を維持する警察第一の務めが、幾分怠られる様になつたことが其の主たる一原因であるまいか、(二)そして、その怠られるに至つた一原因の中には交通事故の頻發防止のため、言ひ換ゆれば、自動車交通の増加による悪影響があるのではあるまいか、(三)然り、近年に於る交通事故の取締は、近年の警察事務を一層複雑ならしめて居ると謂はねばならない、(四)それらのため、近年の道路行政の範圍は殊の外擴大せられて居る。その外に日本特有の原因もあるのであるが、現在の道路行政機關、言ひ換ゆれば警察機關は十年、二十年前の機關の規模そのままにして、現在の實用に適

し兼ねて居るのではあるまいか、これその事故の年ごとに多きを加へて、警察の効果の意外にも失墜して來た所以であらう(五)私どもは今日の必要に適合せしむべくそれを適度に擴大する必要があるのであらう。

三

英國のそれが、吾等の好き手本であると妄信する譯ではないけれど、私は最近の英國新聞で

三萬四千人の中から擇ばれた英國の自動車運轉手の検査局長

といふ見出しの記事に一寸、感服した。三萬四千人の中から擇ばるゝ只一人の局長とは何んな人か。其の人は必らず拔群の能吏であらうと想像したのである。

其の人は大佐ステュアート氏であつた。軍人とは云へ、最初から軍人を志願した者でなく、學生としてはケムブリツチ大學に學んだ人であるが、大戦に際しては佛國に出征し、後、埃及にも、シंगाポールにも、印度にも引きつゞき軍務に服して、一昨昭和の八年に退役し、爾來、某自動車學校の教官となつてゐた者であるが、今更、交通大臣の鑑識に逢ひ、拔んでられて此の新重地に當つたといふのである。但、その三萬四千人の中から擇ばれたといふことは、その様の多大の候補者の中から擇ばれたといふのではなしに、多分は三萬四千人にのぼる自動車運轉手の希望者を檢定試験する其の主任者に擇まれたといふ意味であらうと私は本文を讀んだ。

標題と本文の内容に其の様の喰ひ違ひのおこつたことはそれはそれとして、(一)こゝに英國が自動車運轉手の検定に重きを置き、かなり嚴重の試験を課し、ますゝそれを嚴重にしつつある用意と方針とが分つた、(二)そのため、その検定の試験官、検定吏員の任用に、特に、慎重の注意を拂ひ、遂に同大佐を任用するに至つたといふ経緯が分つた、私は、この記事によつて、この様の感想を得て、然り、運轉手に嚴重の試験を課し、その技倆に、その人物に、注意を拂ふことは目下の緊要事である。自動車事故を少くし、道路の交通を安全ならしむる希望計畫の上に最も必要のことである。これは近年増大しゆく交通不安の傾向を匡救し、國家治安の責務を完ふする上に最も必要の注意である。英國は必要の所に目を着けたと思ふたのである。それと同時に、私は、日本に於ても斯くすべきである。米國に於ても斯くすべきである。すべて、近年の道路事故の多きに惱まされつゝある國々は、すべて斯くすべきであると思ふたのである。勿論、私は、さうすれば、この多數の事故が直に消滅するとは思はない、しかしながらこの趨勢、この不祥事、悲惨事を痛憂する者は、せめて、それに對應し、それを救済する手段の一として、この様の組織と制度に注意すべきだと思ふたのである。

英國のその報道により教へられたことは以上の一事に止まらない、その他かなり細かく種々のことが主張され規定されて居る中に私の感じたことの二三は

一、運轉手の試験のみならず自動車試験も必要である——一層嚴重にするといふ意味に於て——
 一、そこで、なにが——といふ飛行技師が、その検査長に擇ばれ前記の大佐と協力して其の任に當る。

それには約二百人の補助者を必要とする——ロンドンに於てのこと——その俸給は一年二千百七十圓より二千五百六十圓まで増給し得られ、そして、別に住宅料を給せらる。

二、巡査に双眼鏡を持たせる必要がある。遠くの光景を正確に視察し得させるため
三、それよりも自動車による偵察隊、追捕隊が必要である。

この要求に就ては憶ひ起す種々の事實がある、米國の泥棒達は、随分、大仕掛で、又大膽で、戦車同様の自動車を驅つて跳び込み又驅け抜けて居るのだから、歩行の巡査では何うにも仕様がな
何うしても自由に快速力の自動車を乗り廻させる必要がある。さうでない
と、巡査は、如何に勤
勉熱心でも、のろ／＼泥棒は、大膽にして敏活、大手を揮つて雄飛する、英國でこの趨勢に鑑みての
この要求は、尤も千萬である。

そして、それは英國や米國の事に止まらず、現に日本でも自動車利用の悪黨は所在に絶えない。日本でも巡査が自動車を所持する必要がある。すべてに行き亘らせ得なくとも、特種の役廻りの者にそれを持たせる必要がある。一般の巡査には自動車運轉の練習をさせて、いざ必要の場合に途上の自動車を喚び留めて自由に乗用することを得させ、且巡査自身にその際思ふまま、それを操縦し得せしむることが必要である。

四、スポーツや體操も、巡査の慰安と教養のため、尙、その健康増進の目的からも必要のことである。

五、相當の住宅を補給せねばならぬ、今日在る所の住宅は適度以下である。

六 巡查の案山子、案山子の巡查を作つて町の要所々々に立てることも、人と其の勞力を省いて且道路の事故を省く上に有効である。これは一部に於ては既に經驗済のこと、巡查達は、この案山子の巡查を、だんまり屋の同僚と稱して居ると他の總監は報告して居る。

何にせよ、關係の範圍が廣くなつた、多くなつた。いろ／＼の手段、工夫、革新の工夫が要る。何うして、其の必要を充たさねばならない。道路行政を此の際大いに擴張することは焦眉の急である。

四

道路行政圏を、この際思ひきつて擴大すべしと云ふ。私の本論の一基礎は、以上の通り自動車の進歩とその利用の普及とに在るが、以上の記述は未だ盡さないながら、その論旨を略ぼ提唱し得たとし、更に補足したく思ふことが二つある。以下に、それをより簡単に記述する。

その一は、自動車専用の道路のことである。これは自動車専用と申すけれど、自転車も含むのである。その他、機力による交通用具の一切を含むのである。

その様の自動車専用の道路を作ることの説が世界の各國に在る。それは(一)新設すべし(二)否、必ずしも新設するに及ばない。現在の道路をその様に限定して利用せしむとの二説になつてゐる。英國の現交通大臣ベリッシャ氏の如きは其の熱心なる提案者である。

それに賛成の論者はかなり多い——前號の所説參看——しかし反對論者も亦多い。そこで、乗車

人のためと「歩行人」のためとの異なつた立ち場からの論争が英國に於ても其の他の國に於ても戦はされつゝある譯である。一例は、今春の同國下院に、一議員から交通大臣に對し、

「乗車人即ち自動車等の爲専用道路を作らんとする意圖が政府に有られるのか、若くは無いのか」と問ふに、廣く世上の注意を喚起した、これに對し大臣は直接の答へを與へなかつたが、若し、これに「有る」と答へたら佳いと次の如き面倒なる問題を惹き起す意圖であつたと謂はるゝ、

それは、自動車のため専用の道路を設けるといふことは、一般歩行者に對し、その道路の横斷を許さるゝ或地點に於ての外、一步たりともその道路に踏み入ることを許されないと云ふことになる、それは、古今の道路の通念と慣行に一大變革を及ぼす、即ち、一般公衆の通行の許されない所に、特種の車輛若くは車輛の乗用者のみを使用を許さるゝ公道といふことになるのだから、憲法の確認して居る各人の權利に及ぼす所の影響が餘りに重大であり、特に、慎重の攻究を必要とすると云ふ説が起り得る、否、それらの説が既に起つて居る、設洵に容易ならぬと謂ふのである。

とは云へ、自動車の利用は、絶體の必要、到底避くべからざるものとするならば、そこに許容の理由も生ずるか知れないけれど、僅自動車の利用は、産業上、經濟上、絶體の必要に本づくものと謂へるか、公平なる調査の結論は必らずしも然りでないことを示す。交通上の諸混雜は、(一)多くは個人私用の自動車に起因し、(二)それは娛樂のため、若くは道樂に勝手に利用することに起因して居るのである、それ故に、一般人の憲法上の權利の侵害を承認してまでも、其の専用の道路を設定すべきかといふことが問

題となるに至るのである。

私はこの兩説の争ひに對し、一家言を有する、それは略ぼ前誌に述べた通りであるけれどこの論點に關してはこゝに急卒な判斷を下さない。けれども尙申す、道路行政者は道路に對する其の注意を一層深厚にしなければならぬ。現状に於ては、道路の利用率が増進せられた一方、歩行者の安全率は甚しく傷つけられて居る。これをこのまゝに放置して顧みないことは、道路行政者の任務を怠るもので、決して其の名譽と信用とを保持する所以でない。

五

その二は飛行機の發達である。その交通上に及ぼす積極、消極、安危、善惡、兩方面の影響を深く査察しなければならぬことである。

議論を極所に押し詰め、假に戦争の起つた場合を想像する。外國の人は、その場合、その地下道に潛み込むことが出來るとする。地下道でなくも、地下室に靜まり居ることも出來るとする。我が國には、その地下室も、地下道もない。それを、早急施設することを必要としないのであらうか。勿論その地下室があつたとて、地下道があつたとて、その場合の危険は避けらるゝものでないが、それでも、心理的にそれに由つて、慰安せらるゝ影響は幾分かあらう。その安心を有つものと、安心を有たないものと、その際の狀相こそ大いに考へられ憂ひられる譯であるまいか。

私は、この飛行機發達の結果の、道路の建築、交通の政策乃至住宅、工場、若くは廣場の如きの構造に及ぼすべき影響を重大視する者である。

近來地下電車の計畫が進んで來た、東京市の地下道の計畫はそれと駢んで大いに工夫すべきであらう、私はこゝに東京市の百年の計畫がありはしないかと思ふ、この點に於て、東京市が地下電車の計畫權全部を私立會社に讓渡し去つた前年の處置を私は此上なく遺憾に思ふ、財政上、その施設は私立會社の經營に委ねばならなかつたとしても、その權利は、紐育市が頑として市に留保した如く、東京市にもそれを堅く留保すべきでなかつたらうか。留保しつゝ私立會社の營業を承認すべきでなかつたらうか。想ひ起すだけに追恨の情に堪へない。

且、斯く申すこと、地下道の計畫を大いに進むべきであらうと申すことは、獨り東京市に限つたことではない。大阪市にも、京都市にも、全國の重要都市に皆必要のことである。それ故に、それは統一して指導し計畫さるべき重大の事業である。或は研究さるべき事業である。

私は何にせよ、道路行政圏の擴大されねばならない、實際の必要を思ひ、それに直面して、そしてそれに對する中央政府、主管當局者の用意如何を問題と爲したのである。問題と爲さねばならない必要があると思ふのである。尤もそれは私の注意が足らないのかも知れぬ。當局者の用意は既にそれの先の先まで漏れなく届いて居るのかも知れぬ。それならば結構至極である。どうぞそうであらうことを望む。この文學は私の無知の憂慮に過ぎない一片の反古であらうことを望む。